

平成22年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	萌芽研究		研究代表者 氏 名	宇陀則彦
研究課題	電子書籍と紙の書籍を連続的に扱うライブラリスぺースの設計手法に関する研究			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
宇陀則彦 松村敦	図書館情報メデ ィア研究科・准 教授 同・助教	図書館情報学 情報学	紙の書籍の選択および書棚スペースの設計 電子書籍の選択および書棚スペースの設計	
研究目的				
<p>昨今、電子書籍および電子書籍端末が急速に注目を集めている。一方、紙の書籍もモノのとしての存在感とデザイン性が再認識され、その特長を活かした個性的な書棚を演出するブックディレクターという仕事も登場している。紙の書籍と電子書籍は対置して語られることが多いが、両者は決して相反する存在ではない。むしろ、それぞれの特徴を活かし、組み合わせることによって相乗効果を生む可能性が高い。そこで本研究は、同じ書棚の中に電子書籍端末と紙の書籍を並べたり、電子書籍端末の中の仮想的な書棚と現実世界の書棚をリンクしたりするなど、リアルとヴァーチャルを近づけた新しいライブラリスぺースの設計手法について検討することを目的とする。</p>				
研究成果				
<p>筑波大学学園祭において「近未来書籍カフェ」と題した出展を附属図書館と共同で行い、電子書籍と紙の書籍を連続的に扱う実験を行った。実験では、「幕末の人物」「数学ドラマ」「Webを夢見た思想家」等、25余りのテーマを設定し、それぞれのテーマに関連した書籍を電子と紙で同じ棚に展示した。例えば「幕末の人物」では、西郷隆盛や桂小五郎に関する紙の書籍のすぐ横に「龍馬伝」の電子書籍を並べ、利用者の反応を観察した。その結果、リアルとヴァーチャルを近づけたライブラリスぺースの設計に関して以下のことが明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 動きのあるテーマ（例、コーヒーの作り方、星座の動き）では、動画やアプリと連動している電子書籍の特長を活かすことができるが、動きのないテーマでは紙の書籍を並べると変わらない。</li> <li>● 年配の方のほうが電子書籍への興味が強い。反面、若者は当たり前存在と感ずる傾向にある。</li> <li>● 附属図書館の書籍はカバーがないので展示に耐えられるかどうか懸念していたが、そのことを指摘する利用者はいなかった。</li> </ul> <p>なお、本展示は学園祭の最優秀賞を受賞した。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重田桂誓, 松村敦, 宇陀則彦. Web ページを視覚的に要約する「表紙」生成エンジンの開発. 電子情報通信学会 WI2-2011-01~24 p.89-90 2011.3</li> </ul>				